【雪餅事件】雪琴と煎餅へ：自分の誕生日の日に書いた手紙

> 【解説】「雪餅事件」で、逮捕された２人の友人、祥子くんが２人に書いた手紙を訳してみました。ご参考まで。2021 年９月 19 日、ジャーナリストの黄雪琴さん（1988 年生）と社会運動活動家の王建兵さん（1983 年生）が、広州市警察に「国家転覆扇動罪」の容疑で逮捕されました。逮捕されてから２年が経過した 2023 年９月 22 日に、広州市中級裁判所は初公判を非公開で行いました。2021 年の逮捕から今日で 945 日が経過しています。黄琴雪さんと王建兵さん、２人合わせて「雪餅」と呼ばれています。黄琴雪さんの名前の一部である「雪」と、王建兵さんの名前の「建兵」と似た発音の「煎餅」の「餅」の文字をとってつけられたニックネームです。「雪餅」は中国のお菓子メーカー旺旺が製造販売しているお菓子の名前で、日本の三幸製菓の「雪の宿」とほぼ同じもの。また日本の「はんぺん」も「（魚肉）雪餅」と訳されているようです。以下、「雪餅」２人の友人である祥子くんが、２人が逮捕された８か月後に書いた手紙をざっと訳してみました。祥子くんも王建兵（煎餅）と同じく広州の草の根労働運動に従事してきた同世代の仲間です。

【支援サイト】
Free Huang XueQin & Wang JianBing／関注雪餅：黄雪琴、王建兵
https://free-xueq-jianb.github.io/

雪琴と煎餅へ：自分の誕生日の日に書いた手紙

祥子　2022 年５月 20 日

原文　https://free-xueq-jianb.github.io/2022/05/20/520letter/

向かって左から　黄雪琴、王建兵、祥子

煎餅、雪琴へ。

君たち二人のフルネームをキーボードで入力しようすると、指が動かなくなってしまう。これまでの失われた日々の中で、僕は君たちの名前をしっかりと書き記す勇気もなかった。だから「雪餅」としか書けない。なぜなら、今こうしてキーボードに向かっているときもそうだけど、君たちの名前をフルネームで口に出して言おうとすると、どうしても涙を抑えることができないから。

今日はずっとぐずぐずしていて、この文章をやっと書き始めたのは 23 時になってから。昼間から

ずっと手紙を書こうと考えていたのだけど、君たちの名前を書き記したり、君たちが自由を奪われていることを書こうとすることが怖かった。実は今日まで一文字も書き始める勇気がないまま、この手紙を書くのに丸８ヶ月もかかった。

［2021 年］11 月５日の「逮捕通知」に印字された君たちの名前を実際に見たとき、その瞬間になって初めて、君たちが本当に自由を失ったことを理解したというか、絶望的になった［逮捕から約２か月たって逮捕通知が公開された］。僕は S 君はこう言われたことがある。「印字された文書ってそんなに重要？」と。ああ、とても重要だ。こんなに残酷な現実を僕はそう簡単には受け入れることができない。僕のこのこだわりは、君が一番よく知っているはずだ、煎餅。

君たちが目の前からいなくなってしまった現実をどう受け止めればいい？

君たちが失踪した日の 2 日後は中秋節だった［中国では中秋節の日に家族や親しい友人らと一緒に過ごす習慣がある］。僕は高層マンションのベランダで友人が開いた中秋節のパーティに参加していた。そこでは君たちに関する通り一遍の話をするしかなかった。だけど、秋の夜の風にあたりながらベランダの縁に立っていると、僕の身体はとんでもない苦しさで一杯になった。それは心の苦しみが肉体にあふれ出た痛みだ。僕の心はもはや、このような苦しみを封印し、沈静化させることができなくなっていた。僕は胸を押さえて、無意識のうちに何歩か後ろに下がって深呼吸した。この身体的苦痛が、簡単に解決できてしまうのではないかと怖くなった。だけど、あの心から溢れ出る、呼吸することさえ苦しくなる、そして解消することもできなかった苦しみは、いまでも僕の身体に記憶とともに刻み込まれている。これは僕らの世代の苦しみなのだ。

ここで改めて、なぜ君たちが逮捕されたのかを理性的に説明するつもりはない。君たちが失踪を議論することそれ自体、とても重要な抵抗になることは知っている。浪漫的理想主義にあふれた雪琴、君ならきっとこの残忍な体制を非難するだろうし、そして僕たちが直面するすべての不幸が、社会正義に対する国家機構全体の抑圧を暴露するものだということを理解していると思うし、それを議論することそのものがある種の教育であるということを理解していると思う。煎餅、君はしばしば、自分がとっくに「寝そべり」（※１）の道を選択していることを自嘲していたけど、君は全体主義体制によるヒューマニズムの歪曲や社会の腐敗化を良しとせず、それを許すことはなかった。これらは、君たちを抑圧しているものすべての不条理を物語っている。
（※１）寝そべり（躺平＝タンピン）：権力や困難に対する消極的抵抗のスタイル。サボタージュ。

だけど僕は僕らの非力さをここで繰り返そうとは思わない。僕はこの不条理や残忍さを恐れているのではなく、暴力の背後にある君たちの肉体への攻撃や破壊を恐れている。これまでも不当な捕や冤罪に対して、数え切れないほど抗議してきたが、君たちがいま被っている苦痛やトラウマ、回復不能なダメージは打ち消すことはできないかもしれない。僕は君たちが変わってしまうのではないかと恐れている。君たちが洗脳されてしまうことを恐れているのではない。どんな過酷な状況に追い込まれようとも、君たちの正義に対する思いは変わることはないと僕は思っている。僕が心配しているのは、君たちが肉体的に衰弱させられてしまうのではないかということだ。こんな残酷なことは受け入れられない。

雪琴。君はまた今度も勉強する機会を奪われた。一度目は、香港のビザを申請するために大陸に戻らなければならなかったときで、それはよく練られた罠だった（※２）。
（※２）2019 年２月から香港の大学に短期編入し、同年８月から正式に香港大学の修士課程に入学する予定だった雪琴は、同年 6 月９日の香港の抗議行動に参加。翌日自分のブログでその様子を報じたが、６月 19 日に広州の実家に警察のガサ。８月に入学に必要な書類が抹消されたため中国に戻る。同年 10 月 17 日ごろ逮捕・拘留され、香港大学には入学できず。３か月ほど自宅監視され 2020 年１月 17 日に処分保留。

二度目は、イギリス留学のビザを申請するのに必要なパスポートを返却すると公安警察から言われ、少しおとなしくしておけば自由を得ることができるのではないかと騙され、罠に陥れられたときだった（※３）

（※３）英国の Chevening Scholarship を受賞し 2021 年９月からエセックス大学に留学する予定だったが９月 20 日に逮捕され 10 月 27 日に国家転覆扇動罪容疑で起訴された。

煎餅。君と僕はよく似たバックグラウンドを持っている。君も農村から都会に出てきて、自分たちの身の上にのしかかる階級的な不正義がこれ以上続くことを良しとせず、労働者や社会の期待に応えて活動してきたのに、最期にはこんな報復が待っているなんて。僕は納得できないし、受け入れることもできない。君は何年もうつ病を患ってきたのに、さらにこんな酷い扱いを受けなければならないなんて。獄中で直面するであろうあらゆる侮辱を想像するに、君がそれに耐えなければならないなんて。

表現できないくらい、色んな思いがあるのだけど、それを表現する能力さえも失ってしまったみたいだ。僕は君たちへの思いを久しく封印してきた。なぜならひとたび君たちの姿を思い浮かべると、封印していたあの苦痛も一緒に広がってしまうから。それを直視する勇気は僕にはない。麻雀もやめたし、木曜日のことを口にする勇気もなく、楽しいと思うこともなくなった。僕たちは互いの人生について深く話したことは一度もないが、互いの立場は理解できていると思っている。僕たちの世代を結びつける何かがあるから。

去年の今日、君たちは僕の旧暦での誕生日を祝ってくれた［中国では旧暦で誕生日を祝う習慣がまだ残っている］。おそらく僕の 30 年の人生のなかで、初めて正式な誕生パーティーを開いたと思う。僕には誕生日を祝う習慣はなかったけど、あの日は、みんなで「思わず手に入れた誕生日だ」と呼んだことを思い出す。去年の今頃は、公安警察が僕の周りをうろついて色んな悪さをしていたし、僕もいつまで朝のカーテンを無事に開けられるかわからないと不安な日々が続いていたから。不安はあっても、少なくとも「麻雀」はお互いの支えになっていたね。「29 歳」というハードルは誰でもあるわけだが、まさか僕のその年に、君が失踪するとは思ってもみなかった。

雪琴はロウソクで私の年齢の「29」の文字を描き、「闘争」を意味する赤い鉢巻を僕にまいて、さらに誕生日ケーキの箱を寿星帽子に見立てて僕にかぶせたりした［寿星は「南極老人」とも呼ばれる長寿を司る吉祥の神様］。君らはその時に僕に願掛けさせた。僕は願掛けをしたこともないし、信じていないから、その時はただ目を閉じて口を動かすふりをしただけで、何も願わなかった。いまは後悔している。二人が元気でいてくれるように、雪琴が無事にイギリスに留学できますように、うつ病の煎餅が少しでもぐっすり眠れますように、そんな願掛けをしておくべきだったのに。僕はそのチャンスを逸してしまった。

2021 年９月 19 日の午後１時 41 分。それが最後に煎餅とメッセージをやり取りした最期だった。「ここ数日は、よく眠れました？」と聞くと、煎餅からは「どうだろうね。４年ごとにぶり返すうつ病は避けられないよ」という返事が返ってきた。僕は君のこのメッセージにすぐに返信しなかった。次の日に君に返信しようとしたとき、君と雪琴に連絡がつかず、行方も分からないことが明らかになった。その日から８か月、君たちは僕の前から消えた。８か月も。僕も君たちと同じように、８か月の期間を失ってしまった。その間に世界で何が変わったのかさえ思い出せないことさえある。

僕はまた旧暦で一年歳をとった。誕生日は以前のように新暦で迎えるようになったけど、今日は去年できなかった願掛けをしてみようと思う。二人が元気でいますように、そして釈放されたあかつきには、いっしょに麻雀をやろう。今日も君たちにわずかだけど生活費を送ったので、それが無事に届けられ、使えることができますように、そして釈放されて返済してくれますように。

煎餅、雪琴。僕たちはみんな２人のことを想い続けている。インターネットでは君たちの痕跡をほとんど見つけることはできないのだけど、君たちは決して忘れ去られることはない。